



熊本県大津町災害ボランティアセンター派遣報告

～おったちが何とかしたかとは人たい～

社会福祉法人 白浜町社会福祉協議会 地域福祉課 庄司和哉

熊本県 大津町災害ボランティアセンター派遣報告

- 経緯
- 熊本県大津町の状況
- 大津町災害ボランティアセンターの活動支援報告
- 最後に

経緯

- 平成28年4月14日熊本地震における災害ボランティアセンター運営支援のための職員派遣
- 全国社会福祉協議会 近畿ブロックからの派遣要請に基づき派遣
- 和歌山県からは4月27日より 2名ずつ、第1～第2クールは菊陽町、第3クールからは大津町へ派遣を継続している。
- 本会からは第5クール（5月13日～18日）：庄司、第6クール（5月17日～22日）：中本の派遣を実施した。

熊本県大津町の状況

- 人口 34,113人
- 世帯数 13,604戸
(平成28年3月末現在)
- 高齢化率 20.2%
(平成27年3月末現在)



被害状況

建物被害状況		
5月25日現在 速報値		
■住宅全壊	105	棟
■大規模半壊	188	棟
■住宅半壊	715	棟
■一部損壊	1962	棟
■二次調査	44	棟
■以災証明願	申請件数	
	3,114	件



大津町災害ボランティアセンターの活動支援報告



マッチング班



- 和歌山県から派遣職員はマッチング班を主に担当
- 9割は被災財を整理し、集積所まで運搬する業務。
- 軽トラックの所有や運転ができる人がいないと進まない状況。
- ニーズはあっても、瓦を屋根から落としたり、ブロック塀の鉄筋を切除するなどボランティアでは対応できずに対応できない状況が多い。

ニーズ班 現地調査の様子



大津町はからいも（さつまいも）の産地でした。現地調査でお伺いした農家のおじいさんのお宅では、からいもの納屋をまず修繕しないと収入にならず生活ができない。ボランティアに手伝ってもらえないかとのニーズがありました。ボランティアセンターとしては家で日常生活ができるようになることが優先であり、仕事の為のお手伝いはできないと返答せざるをえませんでした。しかしおじいさんからは「これが日常生活なのに」との話が。おじいさんと話ながらできる支援を考えていきました。



大津町災害ボランティアセンターが大事にしていたことは
ふだんの 暮らし を取り戻すことの支援。

「被災財を見らんで人ば視る おったちが何とかしたかとは人たい」
住民のニーズは被災財の撤去かもしれない。しかし、私達（ボランティアも含む）は被災財を撤去することが目的ではない。失われたその人のふだんの暮らし（日常）を取り戻すために、その人を視る。何とかしたいのは物ではなく、人なんだということがこのセンターで学ばせてもらいました。

被災財を見らんで
人ば視る

おったちが何とかした
かとは人たい